

函館工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	技術者教育実践 I	
科目基礎情報							
科目番号	0444			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	物質環境工学科			対象学年	4		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	学習指導上必要なものを各自で揃えること。						
担当教員	浜 克己						
到達目標							
1.低学年生の適切な学習指導ができる。 2.他者と積極的なコミュニケーションをとることができる。 3.学習指導のためのスケジュール管理ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	低学年生に適切な学習指導を施し、効果を上げることができる。			低学年生に適切な学習指導ができる。		低学年生に適切な学習指導ができない。	
評価項目2	他者と積極的なコミュニケーションをとり、自らの対人能力を鍛えることができる。			他者と積極的なコミュニケーションをとることができる。		他者と積極的なコミュニケーションをとることができない。	
評価項目3	学習指導のためのスケジュール管理により、マネジメント能力を鍛えることができる。			学習指導のためのスケジュール管理ができる。		学習指導のためのスケジュール管理ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達目標 (A-1) 学習・教育到達目標 (B-3) 学習・教育到達目標 (D-2) 学習・教育到達目標 (E-1) 学習・教育到達目標 (E-2) 函館高専教育目標 A 函館高専教育目標 B 函館高専教育目標 D 函館高専教育目標 E							
教育方法等							
概要	3年生までのあらゆる教科の学習を基礎として、学生自らが指導する立場となり、低学年生の学習や生活指導に携わる。それにより、国際的に活躍できる技術者として身に付けておくべき人生観・世界観・価値観の形成を目指し、社会人基礎力としての対話力・交渉術・説明力を養い、対人コミュニケーション能力が深まることを目標としている						
授業の進め方・方法	この科目は、本校のラーニングアドバイザー制度 (Learning Advisor、略称はLA) 等の、校内における低学年生対象の学習指導の補助を通して、総合的な対人コミュニケーション能力の養成を上級学年のみなさんに期待するものである。将来、みなさんが社会人になったとき、さまざまな年代、立場、職業の人間とコミュニケーションを図ることとなる。その予行演習と捉えてもらって構わない。近いところでは面接試験の練習になるだろう。遠いところでは、部下に指導する年代になったときの練習ともなるだろう。そうした経験を、若いうちに得てもらうことを期待している。						
注意点	なお、関連する科目として、1～2年次の数学や英語、理科としておくが、低学年生の学習状況によっては、専門科目の指導を担当してもらうこともある。その点については、相談させてもらうこともある。 上級学年の先輩として、後輩たちの学習を手助けするボランティアとして、積極的な参加を待っている ※JABEE教育到達目標評価：ポートフォリオ100% (A-1：30%、D-2：30%、E-1：20%、E-2：20%)						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週	履修願いの提出			履修 (低学年生への学習指導) を希望する場合は、「技術者教育実践 I 履修願」を担当教員に提出すること。	
		2週	指導に当たっての注意点や、単位認定までの流れを確認する。			低学年生に対する学習指導の方法や、注意点を理解できる。	
		3週	担当する低学年生と対面し、学習計画を立てる。			担当する低学年生とともに、学習の目的や計画を具体的にし、よい結果が得られるための道筋を明らかにできる。	
		4週	担当する低学年生に対し、定期的に学習指導をする。			担当する低学年生と連絡を取り合い、定期的に学習指導をすることができる。	
		5週	学習指導をするごとに、担当教員に確認をしてもらう。			学習内容や経過を、担当教員に報告できる。	

		6週	所定の時間の学習を終わりたい、学習指導に当たっての報告書を提出する。	学習指導をした報告を、適切に行うことができる。
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。	3	
				金属の性質を説明できる。	3	
専門的能力	分野別の専門工学	化学・生物系分野	無機化学	セラミックス（ガラス、半導体等）、金属材料、炭素材料、半導体材料、複合材料等から、生活及び産業を支えるいくつかの重要な無機材料の用途・製法・構造等について理解している。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	50	0	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	50	0	50